

東京2020オリンピック・パラリンピックに関する 町田市の取り組みについて（報告）

- 1 聖火リレー
- 2 オリンピック自転車競技ロードレース
- 3 町田ゆかりの選手応援イベント
- 4 事前トレーニングキャンプ
- 5 大会レガシー



1 聖火リレー

(1) オリンピック聖火リレー点火セレモニー

- 日時：7月9日（金）
- 場所：町田シバヒロ
- 内容：
 - ・公道での聖火リレーは中止
 - ・町田市内を走行予定だった聖火ランナー33名が、ステージ上でトーチに灯した聖火をつなぎ、最終ランナーの鹿沼由理恵さんが聖火皿に点火
 - ・セレモニーの様子は、インターネットの東京都及びNHKの特設サイトでライブ中継



参考：予定していた聖火リレールート
(全長約6km)

1 聖火リレー

(1) オリンピック聖火リレー点火セレモニー



最初のランナー富高日向子さんの
トーチに聖火を灯す市長



最終ランナー鹿沼由理恵さんが
聖火皿に聖火を点火



聖火ランナー
記念撮影の様子

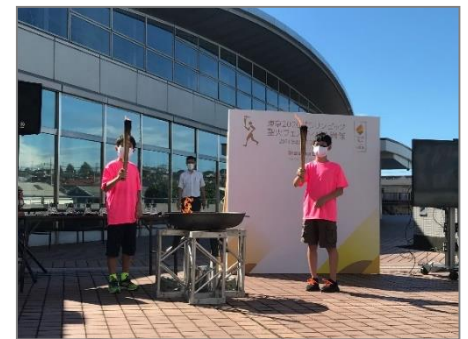


サポートランナー
町田第一小学校児童

1 聖火リレー

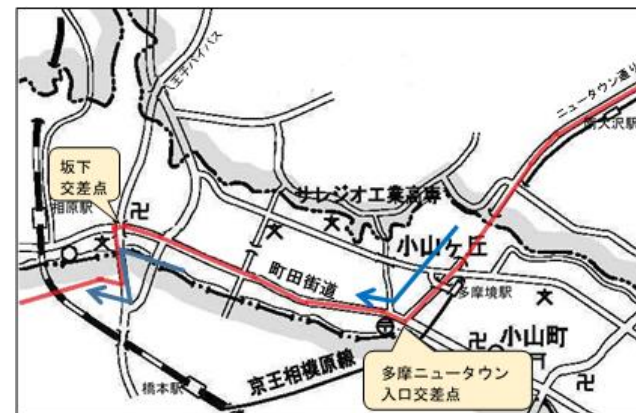
(2) パラリンピック聖火（まちだの火）採火式

- 日時：8月20日（金）
- 場所：市立総合体育館
- 内容：
 - ・市内障がい者施設（5施設）と子ども関連施設（12施設）からパラリンピックや共生社会への思いを含めた種火やメッセージカードを集め、「東京2020パラリンピック聖火（まちだの火）」を採火
 - ・まちだの火は、62区市町村の火と1つになり、同日夜の全国集火式で全国の火と合わさって「東京2020パラリンピック聖火」に



2 オリンピック自転車競技ロードレース

- 日時：（男子）7月24日（土）
（女子）7月25日（日）
- 場所：多摩ニュータウン通り～町田街道～稲荷橋（約3.4km）
- 内容：
 - ・スタートは都立武蔵野の森公園（府中市ほか）
 - ・ゴールは富士スピードウェイ（静岡県小山町）
 - ・男子57か国128名、女子42か国67名が出場
 - ・2日間で延べ397名のまちだサポーターズが、コース沿道で資機材の設置・撤去や歩行者の誘導等に従事
 - ・市内通過の様子はインターネット等で世界へ発信



2 オリンピック自転車競技ロードレース



多摩ニュータウン通りを
駆け抜ける男子選手達



女子選手のメイン集団が
町田街道に差し掛かる様子



コース沿道で活動する
まちだサポーターズ

3 町田ゆかりの選手応援イベント

(1) 大迫傑選手（男子マラソン）応援イベント

大迫 傑（男子マラソン）
金井小・金井中出身



6位入賞

- 日時：8月8日（日）
- 場所：金井中学校
- 内容：
 - ・金井中出身のオリンピック関根花観氏や大迫選手の恩師の話を聞きながら、男子マラソンの中継を観戦
 - ・金井中生徒・保護者を対象に参加者を募集し、21名が参加



3 町田ゆかりの選手応援イベント

(2) 水田光夏選手（パラ射撃） 応援イベント

水田 光夏（射撃）

桜美林大出身



32位

- 日時：8月8日（日）
- 場所：子どもセンターまあち ほか
- 内容：
 - ・子どもセンター 5館と水田選手をオンラインでつなぎ壮行会を実施
 - ・子どもたちからの応援メッセージ紹介や水田選手への質問などを、まあちの子ども委員の司会で進行



3 町田ゆかりの選手応援イベント

(3) 大会に出場した町田市ゆかりの選手競技結果

<オリンピック>

富田 瞳 (女子体操)
南二小・南成瀬中出身



団体 5 位

青山 修子 (テニス)
藤の台小出身



女子ダブルス1回戦敗退

松井 千士 (7人制ラグビー)
横浜キャノンイーグルス所属



1 1 位

3 町田ゆかりの選手応援イベント

(3) 大会に出場した町田市ゆかりの選手競技結果

5人制サッカー

寺西 一 (町田市在住)

佐藤 大介 (成瀬高校出身)



5位

- 当初予定していたコミュニティライブサイト（7/24、7/25、9/5）や市庁舎でのパブリックビューイングは、IOCの方針等を受け中止
- 町田市オリンピック・パラリンピック情報【公式】 (@machida_olypara) 等を通してゆかりの選手を応援



4 インドネシアパラバドミントン代表チーム事前キャンプ

- 日時：8月19日（木）～26日（木）
- 場所：市立総合体育館メインアリーナ（練習会場）
レンブラントホテル東京町田（宿泊会場）
- 内容：
 - ・代表チーム（選手7名、スタッフ3名）が、大会直前のトレーニングを実施
 - ・8月22日、23日の午前・午後（計4回）、公開練習見学を実施（延べ368名が来場）
 - ・8月22日午後の公開練習見学の中で、インターネットを活用して選手へのインタビューや練習風景の配信、応援メッセージの披露などのオンライン交流を実施（子どもセンター来館者、まちだサポーターズ、一般視聴者など計150名が参加）



4 インドネシアパラバドミントン代表チーム事前キャンプ



市長が2階観客席から選手を激励



オンライン交流の様子



インドネシアパラバドミントン代表チーム練習の様子



公開練習の受付で活動するまちだサポーターズ

5 大会レガシー

(1) パラスポーツの理解促進・普及啓発

- インドネシアパラバドミントン代表事前キャンプ
- 2017年度から希望する市内小学校でパラバドミントン体験会を実施
- パラバドミントン、ブラインドサッカー、パラ陸上等の大規模大会開催



5 大会レガシー

(2) まちだサポーターズの活動充実

- 「スポーツ祭東京2013」(東京国体) を契機に誕生
- オリンピック・パラリンピックでも活躍
- 自治体と市民が協力して継続・発展してきたボランティア組織として注目



5 大会レガシー

(3) ホストタウンとしての国際交流

- 事前キャンプ受入れ等に向け、南アフリカ、インドネシアのホストタウンに登録
- 駐日大使館、競技団体、出身アーティスト等との交流や市民への文化紹介イベント等を実施



最後に

東京2020オリンピック・パラリンピック開催をきっかけに
深まった海外代表チームや競技団体、大使館等との
関係を活かして、
市民のパラスポーツへの関心や継続的な交流を、
今後のスポーツ振興につなげていきます！

